

第65期

報告書

京写レポート

2022年4月1日から2023年3月31日まで

株式会社 **京写**

証券コード 6837



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第65期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における事業の概況をご報告申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長
児嶋 一登

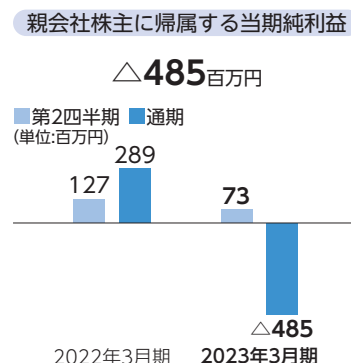
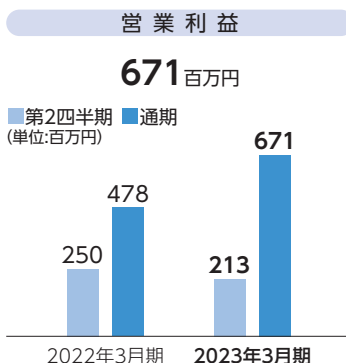
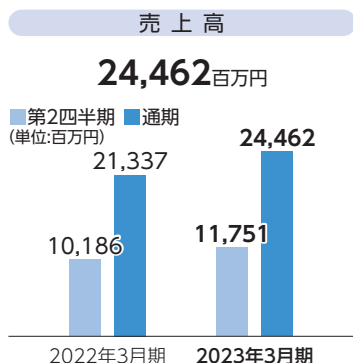
業績の概要

当連結会計年度の当社が属するプリント配線板業界は、国内外共に経済活動の正常化が進み、概ね堅調に推移しましたが、依然として自動車向けの半導体不足や急激な為替変動による原材料、エネルギー価格の高騰が続いていることから、先行きは不透明な状況にあります。

このような環境の中、当社グループの国内の状況は、プリント配線板事業では、主力の自動車関連分野で半導体や部品不足による生産調整の影響を受け、受注は低調に推移しました。実装関連事業では、産業機器や通信機器向けの受注好調に加え、低迷していた航空機向けも回復基調の結果、国内の売上高は前年同期を上回りました。

海外においては、自動車関連分野を中心とした新規顧客と新商品の売上が寄与し、受注は好調に推移しました。また、前期に稼働したベトナムは引き続き順調に推移し、自動車関連分野を中心に大幅に売上を伸ばしました。これらの結果、連結売上高は24,462百万円（前年同期比14.6%増 3,125百万円の増収）となりました。

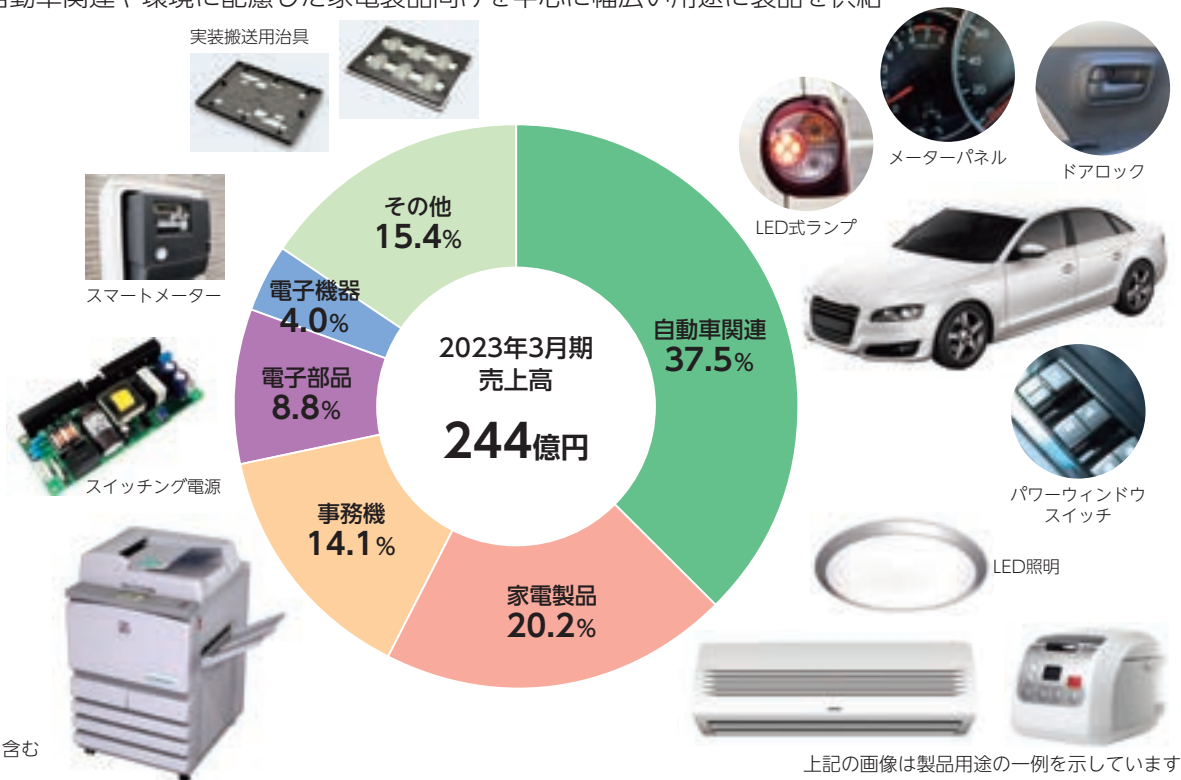
利益面は、国内の自動車生産調整の影響と、主材料等の価格や電力料等の製造経費が高騰したものの、ベトナム子会社や実装関連事業の業績が大きく改善した結果、営業利益は671百万円（前年同期比40.3%増 193百万円の増益）、経常利益は619百万円（前年同期比20.6%増 105百万円の増益）、親会社株主に帰属する当期純損失は、生産協力会社から当社グループの製造拠点への生産移管に伴う特別損失836百万円を計上したことにより485百万円（前年同期比774百万円の減益）となりました。



用途別売上高構成

KYOSHA

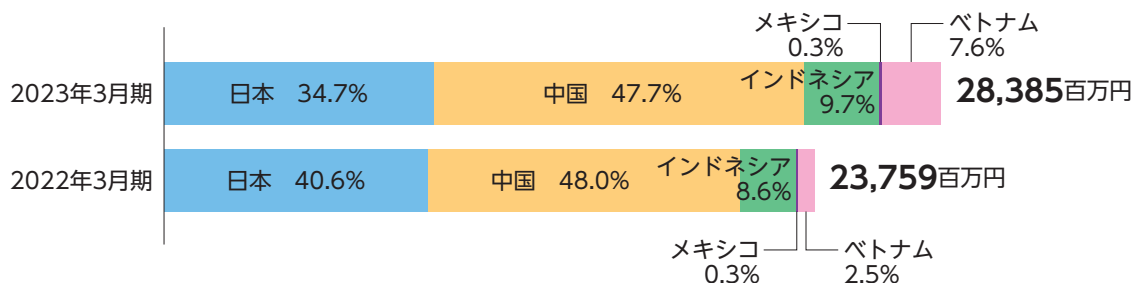
成長分野の自動車関連や環境に配慮した家電製品向けを中心に幅広い用途に製品を供給



地域別売上高構成

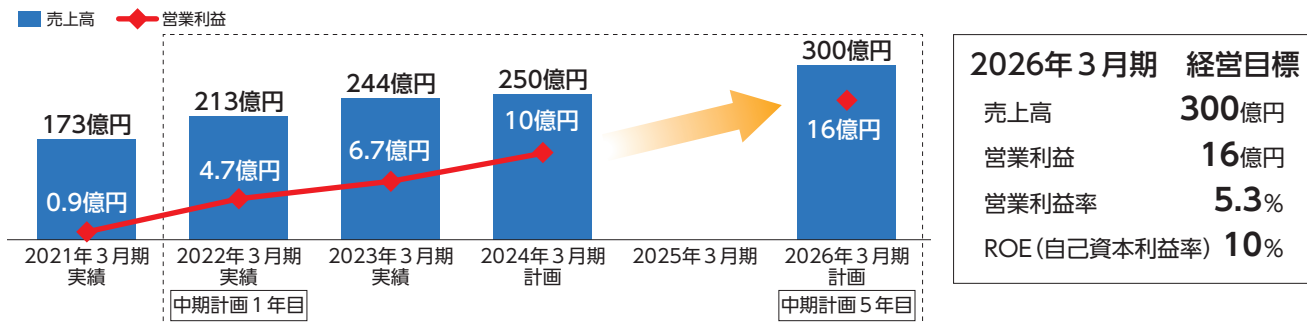
KYOSHA

海外受注好調により売上増加（海外比率65%）、ベトナム拠点は2022年3月期より販売開始し順調に推移



当社は、2022年3月期より5か年の中期経営計画をスタートさせ、成長が続く自動車分野や再生可能エネルギー分野に注力すると共に、サプライチェーン体制の強化を進め、変化が激しい事業環境に対応した戦略により、経営基盤を強化し、持続的な成長を目指してまいります。

中期経営計画 2022年3月期～2026年3月期



次期の年度方針および重点課題

中期経営計画の達成に向けて、次期は下記の年度方針を掲げ、重点課題に対処してまいります。

■ 年度方針：一人一人が為すべきことを為す

全社員が何をすべきか自身で考え計画を立案し、立てた目標に責任をもって、完遂させることで、個人と会社の成長を目指します。

■ 重点課題

- ・ 全員参加でベトナム工場の事業の確立
 - ・ 新規顧客、新商品開発の推進
 - ・ 業界No.1のものづくり競争力を身につける
 - ・ 間接業務のQCDを向上させる
 - ・ ESG経営体制の構築
 - ・ キャッシュフローの抜本的改善
 - ・ 後継者の育成とやりがいある組織文化の形成
- ： 最優先課題として全社一丸となり、ベトナム工場を新しい事業の柱とする
 - ： 将来の成長に向けて製販技が一体となり、新成長分野の開拓や新しい技術工法へ挑戦する
 - ： 意識改革を強化し、品質と生産性のさらなる向上と改善活動で、差別化を推進する
 - ： ムリ、ムダの排除やDXなどを活用し、徹底した品質、業務効率、納期の向上を図る
 - ： 「地に足のついた経営」を進め、地球環境の保全や持続可能な社会づくりに貢献する
 - ： 顧客、協力会社やグループ会社のコミュニケーションの強化による物流や在庫の適正管理を推進する
 - ： 会社と人材の成長のために後継者育成を全階層で行う一人一人がやりがいを持てる職場づくりを目指す

製品 京写中国工場で金属基板の量産本格化

京写中国工場は、グループ最大の生産拠点で「片面プリント配線板」と「銀スルーホールプリント配線板」を生産し、主に日系企業に自動車、家電、事務機向けの製品を供給しています。また、新商品の開発も行っており、LED照明向けの全長1.2mの長尺基板の開発・量産化や微細部品に対応した0603実装部品対応基板の開発などを進めてきました。

前期から量産が本格化した金属基板は、通常のプリント配線板では樹脂の部分がアルミや銅などの金属で出来ているため、高い放熱性をもっています。この特性から自動車のLEDヘッドライトや高光度のLED照明などの高い熱を発する製品の放熱に使用されています。

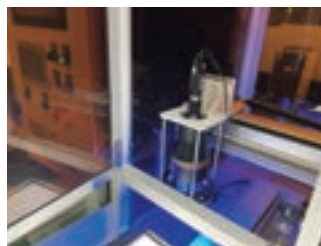
中国工場で生産される金属基板は、当社のコア技術であるスクリーン印刷法で製造されており、他社の写真法による製法と比べ約2倍の生産性があります。また、印刷精度も写真法と同等の品質を実現しており、他社と比べ安価で高い競争力がある製品となっています。金属基板は、放熱性だけでなく高電圧・大電流の制御に使用されるパワー半導体にも使用されるため、今後の発展が期待される製品です。



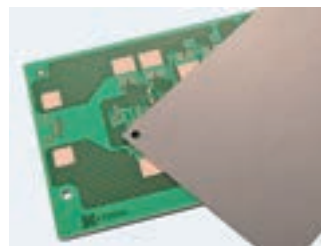
(自動精密印刷機)



(耐電圧試験器・自動ロボット)



(高精度測定器)



(金属基板 (アルミベース))

会社名: Guangzhou Kyosha Circuit Technology Co., Ltd. (京写広州)

設立年月日: 1994年6月3日

資本金: 80,000千HK\$

生産能力: 片面プリント配線板220,000㎡/月 (内 金属基板10,000㎡/月)

銀スルーホールプリント配線板40,000㎡/月

ESG CO₂排出量削減プロジェクト発足・前年度比4%削減を目標

当社グループのサステナビリティ方針に基づき、E、S、Gに配慮した事業活動を行い、SDGsの目標達成を目指します。

ESG	SDGsの目標	京写の取組み
E 環境	 ・水の利用効率の改善  ・地球温暖化防止 (CO ₂ 削減)  ・化学物質の使用量削減 ・廃棄物の削減 ・エネルギー効率の改善	・水、電気、インクの総使用量と 原単位使用量削減 ・廃棄量の削減 ・自社開発の環境配慮型製品 (ECOMAP)の市場浸透 ・環境対応、省エネ向け製品 シェアの拡大
	 ・適切な雇用創出  ・強靱なインフラの開発 ・製造業のサプライチェーンの 強化とバリューチェーン拡大	京写ベトナムによる両面板 サプライチェーン体制の強化
	 ・質の高い教育の推進  ・ジェンダー平等、女性活躍推進 ・社会貢献活動	多様な人材の育成と能力の発揮
G ガバナンス	 ・企業倫理の徹底と法令順守	サステナブル体制の推進

生産活動の中でSDGsへの貢献度が高い「CO₂排出量削減」を優先課題の一つとして掲げ、各拠点の若手社員を中心としたメンバー20名が集まり「国内製造拠点CO₂削減プロジェクト」を発足しました。重点課題として「電力使用量(CO₂排出量)の削減」、「ペーパーレス(廃棄物削減、生産性向上)」に取り組むことを決め、各拠点のこれまでの活動事例を共有し水平展開を進めています。具体的には生産設備のコンプレッサーのエア漏れ改善、全館LED照明導入、生産シフトの調整での生産効率化等による電力使用量の削減、業務の自動化や受信FAXのPDF化等によるペーパーレスに取り組み、次期は「CO₂排出量前年度比4%削減(原単位当り 電力消費量前年度比3%削減)」を目標に掲げ、全社一丸となって計画的に推進してまいります。

会社概要 (2023年3月31日現在)

- ・社名 株式会社京写
- ・本社 京都府久世郡久御山町森村東300番地
TEL:075-631-3191 FAX:075-631-7761
- ・設立 1959年2月14日
- ・資本金 1,102百万円
- ・従業員数 1,282名（連結）、274名（単体）
- ・事業内容 プリント配線板の製造及び販売、
実装搬送治具の製造及び販売
- ・拠点
製造 京都、熊本、新潟、神奈川
営業 京都、熊本、東京、愛知
- ・子会社
国内 三和電子（岡山）
中国：京写香港、京写広州、京写広州貿易
東南アジア：京写インドネシア、京写ベトナム、
京写タイ、京写マレーシア
北米：京写ノースアメリカ、京写メキシコ

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 58,000,000株
発行済株式の総数 14,624,000株
株主数 3,326名
大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
株式会社児嶋コーポレーション	2,048,000	14.2
児嶋雄二	1,125,800	7.8
株式会社エヌビーシー	524,000	3.6
児嶋淳平	482,000	3.3
児嶋一登	438,000	3.0
児嶋 亨	436,000	3.0
池田朋子	400,000	2.8
京都中央信用金庫	350,000	2.4
株式会社メイコー	273,600	1.9
株式会社三菱UFJ銀行	260,000	1.8

(注) 当社は、自己株式229,487株を保有しており、上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。

取締役及び監査役 (2023年6月23日現在)

代表取締役社長 児嶋 一 登
取締役 児嶋 淳 平
取締役 平 岡 俊 也
社外取締役 日 比 利 雄
社外取締役 飯 島 貞 利
常勤監査役 桃 井 茂
監査役 奥 田 茂
社外監査役 高 岡 謙 次
社外監査役 松阿彌 初 美

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会 6月
剰余金の配当の基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード
（証券コード：6837）
公告の方法 電子公告とし、当社ホームページ（<https://www.kyosha.co.jp/>）に掲載いたします。但し、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。